

四 播磨はりまと豊臣秀吉とよとみひでよし

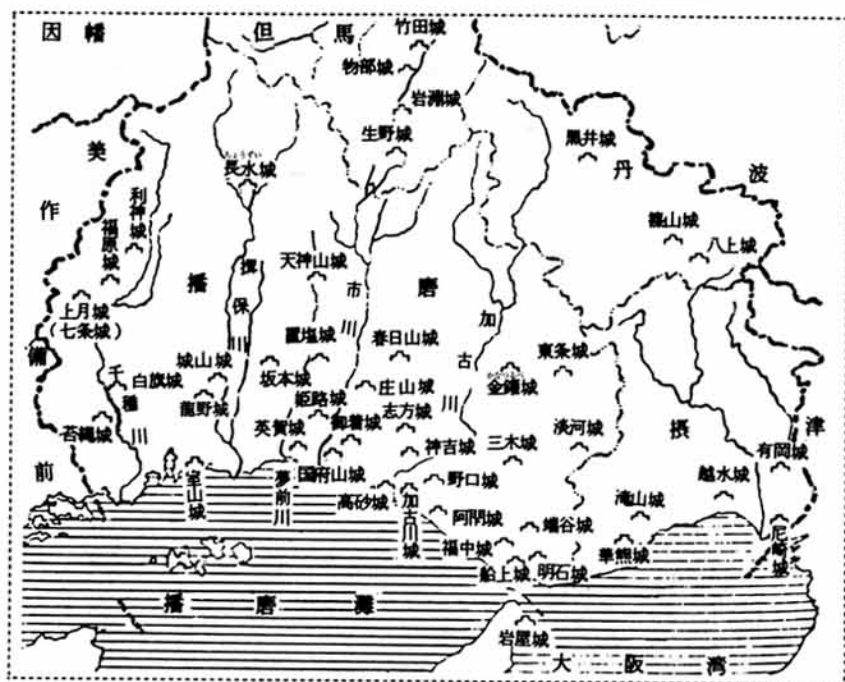
(一) 秀吉の播磨平定

播磨の武将 桶狭間おけはざまで今川義元いまがわよしもとの軍を破った織田信長おだのぶながは、やがて美濃・近

江みを平定して、天正てんしょうのはじめ京都まで勢力をのばしました。さらに、中国地方の毛利氏もうりを討つため、一五七七年（天正五年）には、羽柴はしば（豊臣）秀吉が播磨に進出してきました。

まず、中国の玄関げんかんともいうべき上月城こうづきじょうを落とし、尼子氏あまこに城を守らせました。そのころの播磨地方は毛利氏の影響えいきやうりよく力が強く、そこへ新しい織田勢が入ってきたので、三木の別所氏べっしょ、御着ごちやくの小寺氏、英賀あがの三木氏ら播磨の武将たちは大きく動揺どうりょうしました。

秀吉は、書写山の十地坊を本営にして、



播磨の城の分布

三木城を攻めましたが、たやすく落

秀吉は、姫路の黒田官兵衛かんべえ孝高を味方にして、置塩城のおきしお赤松則房をはじめ諸将を従えしよしやうましたが、なかには毛利氏に援助をたのみ、秀吉に従わなえんじよい者もありました。播磨で最も勢力の強かった三木城主じようしゆ別所長治が毛利氏と通じ、織ながはる田方に反旗をひるがえすと、東播磨の諸将もほとんど別所氏に味方しました。

ちず手をやいていました。おりから、毛利軍が上月城に逆襲して来たので、秀吉は上月城の救援に向かったのですが、毛利軍を撃退できないまま、上月城救援をあきらめ、三木城攻略に全力をあげなければならなくなりました。秀吉の救援を断たれた尼子勝久は自害し、尼子氏は滅びました。尼子氏の再興に努力してきた重臣、山中鹿之介幸盛もとらえられ、広島へ連れて行かれる途中で殺されました。

秀吉は、神吉城・志方城を落として、三木城の周りに付城や砦などを三十余か所造って包囲し、兵糧攻めをはかりました。これが有名な三木の干殺しです。毛利軍や有岡城の荒木村重、英賀城の三木通秋ら反織田勢が、かわるがわる三木城に食料を送っていました。しかし、その輸送路も断たれ、二年近く城にたてこもっていたため城内の食料はなくなってしまう、一五八〇年（天正八年）一月、ついに、城主別所長治は自害し、城を明け渡して家来の命を救いま

した。

そのころ、御着城主小寺政職まさもとは、毛利・別所・荒木の諸氏しよしと結び、織田方に對抗たいこうしていました。秀吉は、三木城攻めの途中、一五七九年（天正七年）にこれを攻め、はげしい戦いのすえ御着城を落としました。

三木落城らくじょうの後、秀吉は一五八〇年（天正八年）四月、大軍をもって押しよせ、英賀城の攻略にかかりました。城主三木通秋は、英賀御堂みどうを通じて、信長に對抗している大坂（大阪）の石山本願寺を支援し、別所氏とともに織田方に反旗をかかげた武将でしたが、一昼夜にわたる攻防の最中に、通秋側に予期しない裏切り者うらぎが出て落城しました。一五七七年（天正五年）以来の秀吉の播磨平定は、ここに終わりをづけました。

英賀落城によって、通秋父子は、九州へ落ちのびましたが、後に、一五八二年（天正一〇年）、許されて英賀に帰り、もとの河野姓こうのせいを名乗りました。

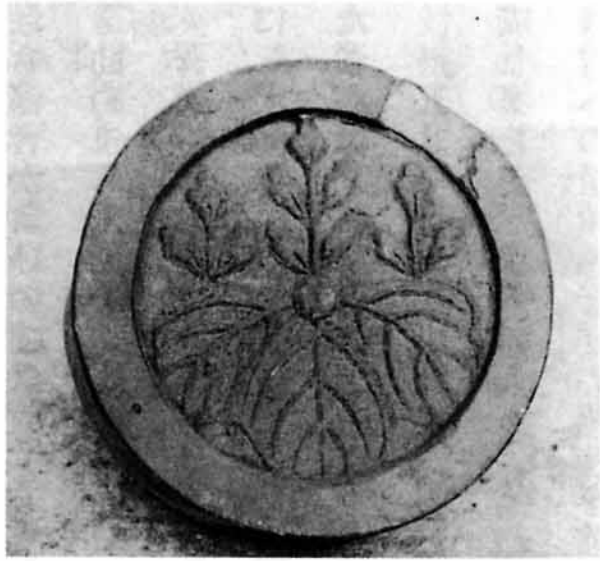
三層の天守閣

別所氏滅亡の後、秀吉は、しばらく三木城を居城としてい

ましたが、姫路城主黒田孝高は、「東播磨の三木に比べ、姫路は播磨の中央であり、地形がよく諸国への交通の便もよい。それに、海に近くて水運もよく、播磨の国の主たるものの居城にふさわしい。ことに、中国征伐の足場とするには、最も都合がよいのでは。」としきりに秀吉を説き、この地に新しく城を築くことを勧めました。

秀吉もこれを聞き入れ、姫路を中国征伐の根拠地にするため、城を築くことにし、築城奉行を黒田孝高と浅野長政に命じました。秀吉に姫路城をゆづつた孝高は、父職隆とともに、妻鹿の国府山城に移りました。

一五八一年（天正九年）三月、姫山の見事な桜に装われた三層の天守閣が完成しました。城下の人々に、われらの姫路城だという親しみと、さらに、城主秀吉への信頼感と安心感を強く抱かせ、秀吉の武名をいっそう高くしました。



五三の桐きり（羽柴氏）の紋瓦もんがわら

この姫路城がどんなかつこうであったかは、今のところ確かな資料も文献ぶんげんもないので分かりませんが、昭和の改築の際に、現在の大天守のところに建っていたことが明らかになりました。後に、池田輝政てるまさが築城したとき、この天守の木材の一部を現在の乾いぬいの小天守や渡櫓わたりやぐらなどに用いたことも確かになりました。

秀吉が姫路城主でいた期間は三年余りの短い間でした。しかし、この姫路城こそ、秀吉が中国平定の作戦をめぐらせた城であり、信長の敵かたき、明智光秀あけちみつひでを討つべく決死の出陣をした城でもありませんでした。後に、天下人てんかびととなった秀吉が活躍かつやくした意義深い城なのです。